



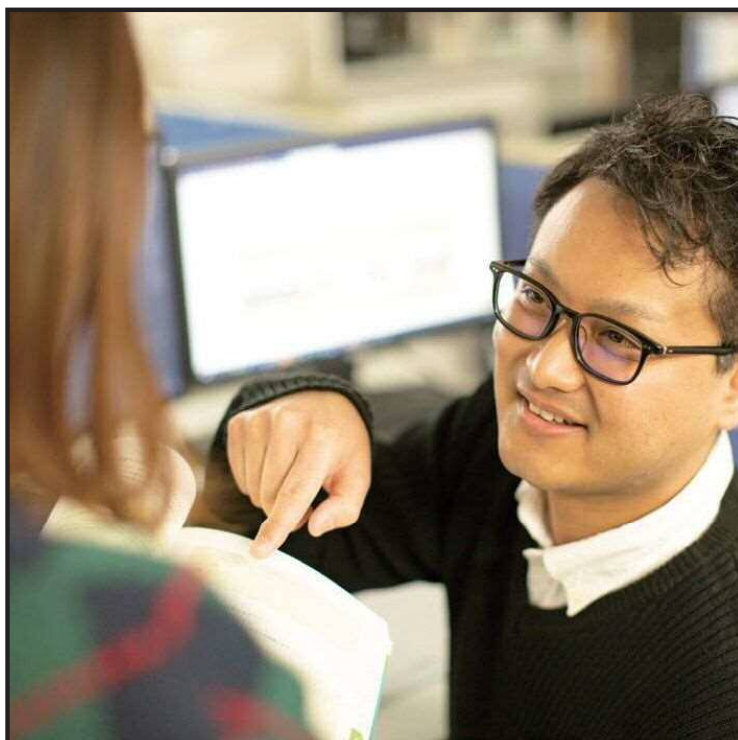
リーズンしまね

Reason Shimane

しまねで自分らしく働ける

# 仕事

しまねで自分らしく  
働いているお二人を  
ご紹介します。  
好きな環境で  
趣味の時間、  
家族との時間も  
大切にされています。



大阪—松江市—Uターン

都会の人混みが苦手だった  
体調不良がきっかけで、  
働き方、暮らしを見直す

在宅勤務する時も、通勤中も  
子どもの頃から親しんだ景色を見ると  
忙しくてもストレスフリー

石倉薫さん(松江市、36歳)



システムエンジニアの石倉薫さん(36)がIT(情報技術)に関心をもち始めたのは中学時代。

夢中になつたゲームプログラミングに興味を持ち、高校生になるとプログラミング言語の言語に取り組んだ。兵庫の大学では情報芸術学を専攻し、主修デザインを学び、卒業後、大阪のIT企業に就職した。ここはとにかく多忙だった。1時間かけて満員電車で通勤。朝早くから夜遅くまで勤務することも多く、ついに体調を崩してしました。「都会の人混みが苦手でしたし、長男なのでゆくゆくは帰りたいと思っていました。働き方や暮らしを見直す時期がきたのかなと思いましたが」と振り返る。

6年前、30歳で地元松江市にUターン。広島のIT企業の松江オフィスを勤務を経て2019年7月、松江市内の地元IT企業に転職した。

社員10人の現在の職場ではシステム開発とサーバー管理のエンジニア、デザイナー職を兼任する同社の阿部勝社長は「都会の厳しい環境でもまれてきただけにスキルが高く、クリエイティブ面を追求する姿勢は他の社員の意識改革やレベルアップにつながる」と評価。今後もUターンインターナラーを積極的に採用したいという。

帰郷後の住まいは農業を営む市内の実家。六通湖を望む山あい、通勤は車で30〜40分かかるが、取って進んだ。

職場で常態として取り入れていたテレワークは、コロナ後はさらに加速。在宅勤務の機会も増えている。

勤務時間外の副業も認められており、実際の仕事量は大阪時代と変わらないが「在宅勤務する時も、通勤で出掛ける時も、子どもの頃から親しんだ六通湖の景色を見ると、リラックスできる。こんな生活環境で仕事ができるので、忙しくてストレスフリーです」と石倉さん。体調面を心配をかけてきた両親を安心させたという気持ちもあったという。

母親の由美子さん(61)は「大阪に居てもやがっている仕事ができているので、幸せに思っています。でも、帰ってきたくて心強いです」と喜ぶ。

スキルを磨けばどこでも働ける

新型コロナウイルスの感染拡大でテレワークが全国に広がり、移住や地方移転、都市部に住みながら副業で地方に関わる、さまざまな働き方が注目されている。

石倉さんは「もともとIT業界は在宅勤務への移行率が、10割という世界。これからは空間の壁を超え、遠くで働く時代。スキルを磨けばどこに居ても働けます」と、移住を考えるIT技術者にメッセージを送る。



奈良 隠岐の島町 Iターン

## 「島留学」通じ就職決意 豊かな自然も後押しし 隠岐の島に定住

漁業はやる気さえあればどんどん可能性が広がる魅力的な仕事

村上優輝さん(隠岐の島町、19歳)



昨年、隠岐の島町で漁師1年目のスタートを切った村上優輝さん(19)は海のない奈良の出身、いわゆる「Iターン」漁師だ。

4年前、1歳上の兄が先に入学していた隠岐水産高校に島留学したのがきっかけ。勉強嫌いだっただ兄が楽しそうに学ぶ姿に興味を引かれたのだという。

海洋生産科に進み、資源生産コースで魚介類の養殖や沿岸漁業、海洋環境を学んだ。就職先は県外の養殖業者と迷ったが、「この島で挑戦したい」と隠岐の島町の巻き網漁業会社が決めた。

夜出港し、巻き網の漁に出る。主漁場は隠岐沖、時には浜田や大社、恵曇沖で操業し、主アシやサブアシを狙う。明け方の掃港まで続く漁はハードだが「仕事は先輩の皆さんに教えてもらいながら、覚えているところ。二日も早く、人前になりたい」と意欲的。先輩漁師の井澤裕さん(58)は「真面目な子。経験値を積んで長く漁師を続けてほしい」と優しく、時に厳しく見守る。

休日には趣味の釣りを楽しみ、車の免許を取って島内のドライブという新しい趣味もきた。那久岬や白鳥の展望台など、お気に入りの風景を見つけたのも楽しんだ。「隠岐の自然

が大好き。じやかな郡会よりも、自然の中にいる方が僕は楽しいんです」。好きな環境での暮らしも隠岐就職を後押ししたのだという。

漁師の高齢化、後継者不足深刻期待の新人

村上さんは隠岐水産高校から30年ふりに入社し、新顔。漁業者の担い手が減る中で期待の新人だ。

漁師の高齢化、後継者不足に対応しようと同社は5年ほど前から若い世代を積極的に採用しており、今春も隠岐水産高校の卒業生と地元20代の計4人が入社予定。野津千寿夫社長(70)は「若い力で隠岐の漁業を盛り上げてほしい」と期待を込める。

高校で学んだ養殖事業を手がけるのが将来の夢

「暖流と寒流がぶつかる豊かな漁場をつくり、魚種も豊富な隠岐ですが、大切な海の資源を守り育てる漁業にも挑戦したい。漁業はやる気さえあればどんな可能性が広がる魅力的な仕事だと思います」と村上さん。将来は、高校で学んだ養殖事業を手がけ、島根の水産業に貢献したいと考えている。



※取材、撮影は、新型コロナウイルス感染症対策を行った上で実施しました。感染症対策に配慮した上で、一部マスクを外して撮影しています。

<p><b>通勤・通学時間</b></p> <p>往復 58分</p> <p>短さ <b>全国2位</b></p> <p>(H28年社会生活基本調査)</p>	<p><b>他市町村への通勤者</b></p> <p>少なさ <b>全国1位</b></p> <p>(社会生活統計指標2020)</p>	<p><b>仕事時間</b></p> <p>5時間 45分</p> <p>短さ <b>全国5位</b></p> <p>(H28年社会生活基本調査)</p>	<p><b>帰宅時間</b></p> <p>18:16</p> <p>早さ <b>全国2位</b></p> <p>(H28年社会生活基本調査)</p>	<p><b>若者の就業率</b></p> <p><b>全国1位</b></p> <p>(H27年国勢調査)</p>	<p><b>完全失業率</b></p> <p>低さ <b>全国1位</b></p> <p>(社会生活統計指標2020)</p>
---	--	---	---	---	---

しまねの魅力  
仕事編

くらしまねのサイトはこちら  
<https://www.kurashimanet.jp>



8面に  
仕事探しに役立つ  
サイトについて  
紹介しています。

自分らしく働きたい。  
ワークライフバランスを  
大切にしたい。  
そんな  
あなたの希望を叶える  
あなたを必要としている  
あなたにぴったりの職場が  
見つかります。  
通勤時間が短く、  
帰宅後はしっかりと  
リフレッシュできます。